

2023年度

環境経営レポート



対象期間 2023年7月 ～ 2024年6月

2024年 7月31日 発行

株式会社金山建設

【 目 次 】

項目No	項 目 名	レポートの 要求No	ページ
	表 紙	—	1
	目 次	—	2
1	組織の概要及び対象範囲	①②	3
	1) 事業者名及び代表者名 2) 所在地 3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先 4) 事業創立年月日 5) 事業活動の内容 6) 事業規模 7) 推進組織図 8) 対象範囲		
2	環境経営方針	③	4
3	環境経営目標	④	5
4	環境経営目標の実績	⑦	6
5	環境経営計画と取組結果とその評価	⑤⑥ ⑦	7
6	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	⑦	8
6-2	次年度の環境経営目標の詳細	⑦	8-2
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	⑧	9
8	代表者による全体評価と見直しの結果	⑨	9
9	活動の事例	—	10

※レポートの要求Noとは、建設業向けガイドライン・環境活動レポートの
レポート作成の番号(1)～(9)のこと。

1. 組織の概要と対象範囲

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 金山建設
代表取締役 金山 昌平

2) 所在地

本社事務所 〒880-0121 宮崎県宮崎市大字島之内字境田6524-12
資材置場 〒880-2213 宮崎県宮崎市高岡町上倉永字星崎1873-1

3) 環境管理責任者及び事務局、担当者氏名・連絡先

EA-21 責任者 総務 金山 真子
EA-21 事務局 総務 高橋 和矢

連絡担当者

TEL 0985-39-6411 FAX 0985-39-2773
E-mail kanayama@kanayama-kensetsu.co.jp

4) 事業創立年月日

1973年 6月 1日 〔創立より 51年〕

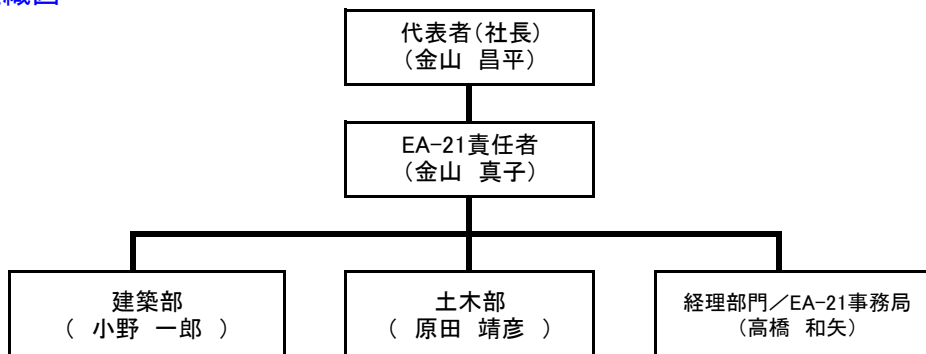
5) 事業活動の内容

建設業（土木工事業、大工工事業、屋根工事業、舗装工事業、塗装工事業、解体工事業、
建築工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、しゅんせつ工事業、
水道施設工事業、石工事業）

6) 事業規模

項目	単位	2021年	2022年	2023年
工事件数	件	74	93	122
従業員数	人	10	11	12
床面積	m ²	105.3	105.3	105.3
敷地面積	m ²	371.04	371.04	371.04

7) 推進組織図



8) 対象範囲（全組織、全活動）

組織・・・ 本社事務所・資材置場
活動・・・ (5)事業活動の内容全て
レポート対象期間 表紙に掲載
レポート発行日 表紙に掲載

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

基本理念

当社の事業活動が地球環境に及ぼす影響を理解し、継続的な環境負荷の削減と環境保全への取り組みを行い、環境と調和した社会の形成を目指します。

行動指針

1. 業務活動が環境に与える様々な影響を認識したうえで、適切な環境配慮を行うためのシステムを構築し、環境経営方針・環境経営目標・環境経営活動計画を定め、運用し、その継続的な改善を図ります。
2. 当社の事業活動にて、環境に与える影響を削減するために、次の事項に優先的に取り組みます。
 - ①エネルギーの利用効率化に努め二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ②資源の有効活動を図るとともに、廃棄物の発生量の削減に努めます。
 - ③節水活動による水資源使用量の削減に努めます。
 - ④地域での社会貢献活動に努めます。
 - ⑤各事業所に於いて近隣環境へ配慮し、騒音・振動・埃等の粉塵に特に気を付けて、管理する事に努めます。
3. 環境に関する法令・条例等を順守します。
4. 次世代の建設業を担う人材の技術力の向上を図り競合力の向上に努めます。
5. この環境経営方針は、当事業所で働くすべての人々に周知させるほか、それ以外の人にも開示し、その達成に努めます。

令和02年 8月 1日改定

平成30年 6月 18日制定

株式会社 金山建設

代表取締役 金山 昌平

3. 環境経営目標

当社の環境経営目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定しました。

なお、目標設定の基準は2020年度(2020年7月～2021年6月)のデータを使用しています。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年 度 別 環 境 目 標			
			基準値 (2020年度 2020年7月～ 2021年6月)	2021年度 (2021年7月～ 2022年6月)	2022年度 (2022年7月～ 2023年6月)	2023年度 (2023年7月～ 2024年6月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		事務所	7,237.1	7,164.7	7,128.5	7,092.5
		現場	38,050.7	37,670.2	37,480.0	37,289.6
		全体	45,287.8	44,834.9	44,608.5	44,382.1
	①電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	6,221.0	6,158.8	6,127.7	6,096.6
		現場	3,618.7	3,582.5	3,564.4	3,546.4
		全体	9,839.7	9,741.3	9,692.1	9,643.0
	②ガソリン使用量の削減 (L)	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	1,228.2	1,215.9	1,209.8	1,203.7
		現場	13,712.9	13,575.8	13,507.2	13,438.6
		全体	14,941.1	14,791.7	14,717.0	14,642.3
	③軽油使用量の削減 (L)	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
		現場	1,897.0	1,878.0	1,868.5	1,859.0
		全体	1,897.0	1,878.0	1,868.5	1,859.0
	④灯油使用量の削減 (L)	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	835.2	826.8	822.7	818.5
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0
		全体	835.2	826.8	822.7	818.5
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	156.9	155.3	154.5	153.7
	②. 建設副産物再資源化率の向上	全体	156.9	155.3	154.5	153.7
		現場	実績 16.2トン 再資源化率 15.8%	環境経営計画を遵守し、 再資源化率95%以上を目指す		
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m ³)		削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	25.7	25.4	25.3	25.2
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0
		全体	25.7	25.4	25.3	25.2
4 環境改善	①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全体	9回	5回以上/年	5回以上/年	5回以上/年
	②. 環境配慮型の取組推進	全体	環境経営計画 を遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守

*2021.8.1 改訂 2020年度実を基準値とし、削減率1.0% 15% 2.0%で、第二次中期(2021～2022年度)の目標値を設定した。

・電気のCO₂排出係数は、2021年1月7日公表、九州電力の調整後排出係数0.371を採用した。

・建設副産物は、再資源化率の向上の取組とし、95.0以上を目標としたが、工事の種類等で仕様書通り遵守しても達成しない場合もあります。

二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO₂) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)
購入電力	kWh		0.371 (kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32 (kg-CO ₂ /L)
灯油	L		2.49 (kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58 (kg-CO ₂ /L)

4. 環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。
実績値は、2023年度運用期間(7月～6月)の年間と、目標値は基準年度(2020年度)の
同期間の削減率から算出した年合計の値と比較する。

取 組 項 目			20232年度目標値 (2023年7月～ 2024年6月)	2023年度 実績 (2023年7月～ 2024年6月)	達成率	判定	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		全社	44,382.1	61,735.2	71.9%	×	
		①電気使用量の 削減 2.05% (kWh)	事務所	6,096.6	6,172.0	98.8%	×
			現場	3,546.4	14,751.0	24.0%	×
			全社	9,643.0	20,923.0	46.1%	×
		②ガソリン使用量の 削減 2.0% (L)	事務所	1,203.7	813.5	148.0%	○
			現場	13,438.6	5,044.9	266.4%	○
			全社	14,642.3	5,858.4	249.9%	○
		③軽油使用量の 削減 2.0% (L)	事務所	0.0	0.0	—	
			現場	1,859.0	15,008.9	12.4%	×
			全社	1,859.0	15,008.9	12.4%	×
		④灯油使用量の 削減 2.0% (L)	事務所	818.5	666.0	122.9%	○
			現場	0.0	0.0	—	
			全社	818.5	666.0	122.9%	○
2. 廃棄物の削減 ①一般廃棄物の削減 (kg) ②建設副産物の再資源化率 の向上		①全社	153.7	145.9	105.3%	○	
		②現場	環境経営計画を 遵守し再資源化率 の向上 95%以上	44,828.5 kg (R率 28.9%)	30.4%	×	
3. 水資源使用量の削減 2.05% (m ³)		事務所	25.2	37.0	68.1%	×	
		現場	0.0	0.0	—		
		全社	25.2	37.0	68.1%	×	
4 ・ 環 境 改 善 活 動	②環境保全の取組み推進 (ボランティア活動の実施)	全社	5回以上／年	10回	200.0%	○	
	③環境配慮型製品・ サービスの提供 (自主的に騒音・振動・粉塵対策を 講じること、しっかりした工程管理 で常に工期短縮に取り組むこと)	全社	環境経営計画 の遵守	遵守	—	○	

※ 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後排出係数0.371を使用しました。

※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が評価○で、項目4～が、実績/目標で
100%以上が、評価○とする。

※ 建設副産物の再資源化率の向上は、95%以上を目指しているが、工事の条件では環境経営計画を
遵守しても達成できない場合があるので、判定はしないとした。

5. 環境経営計画と取組結果とその評価

2023年7月から2024年6月までの環境経営計画と取組結果は以下の通りです。

*実施期間は7月～6月です。

取組項目と活動内容			取組結果	評価
1 ・ 二酸化炭素排出量の削減	①電気使用量の削減 (総電気使用)	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する	①はほぼ定着している ②は本社事務所全体の必要箇所はLEDにほぼ取替した。 ※現場での処理が増加し達成できなかった。	○
		②LED照明や省電力照明機器、省電力型機器への転換を推進する		○
	②ガソリン使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ふかしの防止	①②はほぼ定着している。	○
		②車両運行時はできるだけ早めにアクセルオフしてニュートラル運行を多用する		○
	③軽油使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ふかしの防止	エコドライブや建設機械の始業前点検等はほぼ定着して実施している 工事内容により使用量は少なかった。	○
②建設機械等の始業前点検や定期点検を実施する		○		
④灯油使用量の削減	①室温や使用状況に応じて暖房管理する	暖房用として使用しているが、管理は定着している。	○	
2 ・ 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録(実績を把握)	①②③はほぼ定着している ※現場での処理が増すと一般廃棄物も増加傾向であった。	○
		②コピーは裏紙使用・両面コピー・縮小・集約コピーに努める		○
		③電子回覧やペーパーレスファックス等を利用し、出来るだけ紙を排出しないようする		△
②建設副産物の再資源化率の向上	①建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰り分別して保管して再利用を推進する	①②ほぼ定着している ③に関して、現場状況により工程の変更があり、事前発注した資材に多少の手戻りがあった。	○	
	②廃棄物の処理は出来るだけリサイクル業者へ依頼する		○	
	③在庫管理の徹底による必要最小限の資材発注を行う		○	
3. 水資源使用量の削減		①車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ出来るだけ短時間で済ませる	①は実施した。 ②は定期的に行っている。	○
		②水道配管からの漏水を定期的に点検する		○
4 ・ 環境改善活動	①環境保全の取組推進 (ボランティア活動)	①現場付近や事務所は、常に整理整頓に努める	①②ほぼ定着し、観光地などの美化活動や、会社付近のクリーンアップ活動等、1件の土木の日に献活動を実施した。	○
		②地域や業界、団体等の環境ボランティア情報を把握し、積極的に参加する		○
	②環境型製品・サービスの提供	①自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する	①工事現場では常日頃環境に配慮した機械の使用と作業に心がけている(低騒音BH等) ②ほぼ定着している	○
		②しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む		○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度(2024年7月～2024年6月))は、次のページP-8-2に掲載しています。
及び環境経営計画は下記の通り取組みます。

※実施スケジュールは、全項目年間(7月～翌年6月)

取組項目 と 【環境経営目標】		環境経営計画(活動内容)
1. 二酸化炭素排出量の削減		①省エネ活動の推進
	①電気使用量の削減 (総電気使用)	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する ②LED照明や省電力照明機器、省電力型機器への転換を推進する
	②ガソリン使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ふかしの防止 ②車輛運行時はできるだけ早めにアクセルオフしてニュートラル運行を多用する
	③軽油使用量の削減	①エコドライブを徹底する ・アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ふかしの防止 ②建設機械等の始業前点検や定期点検を実施する
	④灯油使用量の削減	①室温や使用状況に応じて暖房管理する
2 廃 棄 物 の 削 減	①一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録(実績を把握) ②コピーは裏紙使用・両面コピー・縮小・集約コピーに努める ③電子回覧やペーパーレスファックス等を利用し、出来るだけ紙を排出しないようする
	②建設副産物再資源化率の向上	①建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰り分別して保管して再利用を推進する ②廃棄物の処理は出来るだけリサイクル業者へ依頼する ③在庫管理の徹底による必要最小限の資材発注を行う
3. 水資源使用量の削減		①車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ出来るだけ短時間で済ませる ②水道配管からの漏水を定期的に点検する
4 ・ 環 境 改 善 活 動	①環境保全の取組推進 (ボランティア活動)	①現場付近や事務所は、常に整理整頓に努める ②地域や業界、団体等の環境ボランティア情報を把握し、積極的に参加する
	②環境配慮型の取組推進	①自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する ②しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む

6-2. 次年度の環境経営目標

当社の環境経営目標は、環境負荷の調査結果より、第三次中期(2024～2026年度)の環境経営目標を目標を設定しました。
なお、目標設定の基準値は2021～2023年度の実績を使用しています。

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年 度 別 環 境 目 標			
		基準値 (2021～2023 年度実績)	2024年度 (2024年7月～ 2025年6月)	2025年度 (2025年7月～ 2026年6月)	2026年度 (中期の到達目標) (2026年7月～ 2027年6月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	7,813.3	7,735.3	7,696.1	7,657.0
	現場	91,398.4	90,484.4	90,027.4	89,570.4
	全体	99,211.7	98,219.7	97,723.5	97,227.4
	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	①電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	事務所	6,336.0	6,241.0	6,209.3
		現場	19,385.0	19,094.2	18,997.3
		全体	25,721.0	25,335.2	25,206.6
	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	1,185.1	1,167.3	1,161.4
		現場	9,052.0	8,916.2	8,871.0
		全体	10,237.1	10,083.5	10,032.4
	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	③軽油使用量の削減 (L)	事務所	0.0	0.0	0.0
		現場	23,717.0	23,361.2	23,242.7
		全体	23,717.0	23,361.2	23,242.7
	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	④灯油使用量の削減 (L)	事務所	825.0	812.6	808.5
		現場	0.0	0.0	0.0
		全体	825.0	812.6	808.5
2 廃棄物の削減	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	事務所	164.8	162.3	161.5
		全体	164.8	162.3	161.5
	②. 建設副産物再資源化率の向上	現場	実績 29.8トン 再資源化率14.5%	環境経営計画を遵守し、 再資源化率95%以上を目指す	
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m ³)	削減率%⇒		1.0	1.5	2.0
	事務所	39.0	38.6	38.4	38.2
		現場	0.0	0.0	0.0
		全体	39.0	38.6	38.2
4 環境改善活動	①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全体	9回	5回以上/年	5回以上/年
	②. 環境配慮型の取組推進	全体	環境経営計画を遵守	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守

*2024.8.1 改訂

- ・2021～2023年度実績を基準値とし、削減率1.0% 15% 2.0%で、第三次中期(2024～2026年度)の目標値を設定した。
- ・電気のコ2排出係数は、2023年12月22日公表、九州電力の調整後排出係数0.475を採用した。
- ・建設副産物は、再資源化率の向上の取組とし、95.0以上を目標としたが、工事の種類等で仕様書通りの廃棄を遵守しても達成しない場合もあります。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用、購入、保管、移動ともありません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO₂) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)
購入電力	kWh		0.475 (kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32 (kg-CO ₂ /L)
灯油	L		2.49 (kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58 (kg-CO ₂ /L)

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る主な環境関連法規は、担当者が定期的にWeb（環境省ホームページ・環境基準法例等）の改定履歴や建設業協会等からのお知らせ等から年次の運用開始時に見直しと取り纏めを行っています。

尚、環境関連法規の遵守状況確認を実施した結果、違反及び監督官庁からの指摘も、地域住民からの訴訟もありませんでした。

環境関連法規の遵守状況の確認と評価は、3ヶ月に1回実施し、「環境関連法規の取り纏め(兼)遵守評価表」に記述している また現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。

〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な関連法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
大気汚染防止法	特定粉じん等排出作業の伴う建設工事:「特定工事」 ※2006年9月以降に工事着手した建築物等の解体工事など「特定工事」ではないと明らかな建設工事は除く	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (建設機械搭載のエアコンを含む) [事務所エアコンが対象]	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価(○当年度の評価、●次年度への指示)
①環境経営計画の実施状況及び環境経営目標の達成状況	○環境経営計画(兼)実施状況評価で確認した。 ・活動計画はほぼ実施されていることを確認した。 ●新入社員が増えたため、次年度(2024年度)は今までの積み重ねを活かし、各種手順・目標を周知し、徹底していただきたい。 *-----* ○目標の達成状況は、環境経営達成状況管理表で確認した。 ・環境目標の達成状況は、ため池工事の電気ポンプ使用に加え、分流ポンプ棟工事の電気使用量が増加した。また社員増加と本社塗装工事により、事務所での電気使用量も増加した。 ●次年度は、現場状況を把握し、無駄のない工程を目指して省エネに努めたい。
②環境関連法規等の遵守状況	○環境関連法規の取り纏め(兼)遵守評価表で確認したが、当社に関連する法規は、7月の年度とりまとめ後に見直し・取り纏めされ、遵守されていることを確認した。 ●今後も継続して遵守すること。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	○環境情報記録表で確認したが、今期における苦情、クレームが無かったことを評価したい。また環境ボランティア活動については、計画通り以上の10回実施したことを確認し評価する。 ●苦情・クレーム等が発生したら関係者において速やかに対応すること。
④環境経営方針	○●ガイドライン2017年版へ改定後、特に不具合は無かったので、次年度も改定せず現在の方針を継続する。
⑤実施体制	○●当年度、特に支障は無かったので現行の体制を継続する。
⑥環境経営システム(その他全般)	特になし

9. 活動の事例



節水シール



照明器具のLED化

